

..... 編集後記

◆ 昨年6月に噴火した伊豆諸島の三宅島は、思いもよらぬ有毒ガスの大量噴出活動に移行し、9月には全住民の島外避難という最悪の事態に立ち至りました。明けて2001年も半ばを迎えようとする今日、三宅島は依然として忌まわしい吐息を鎮めようとはしません。島民が故郷の島に帰れるのは、いったい何時になるのでしょうか。

その日の一日も早いことを祈りつつ、三宅島の噴火活動の調査・研究は地質調査所から産総研地質調査総合センターへ引き継がれ、地球科学的解明を目指す努力が重ねられています。成果の第一弾は「噴出物編」として本年1月号(557号)の巻頭を飾りました。

◆ 本号の巻頭には三宅島噴火の第二弾にあたる「地下水観測編」を掲載しました。噴火と地下水、ちょっと見には奇妙に思える取り合わせも、口絵と合わせてお読みいただければ、噴火活動に伴う地下水観測の意義がお分かりになることでしょう。

ちなみに、地質標本館では三宅島噴火の速報を緊急展示してきましたが、4月16日からの科学技術週間に合わせて纏まった特別展示に切り替え、17日には避難中の三宅高校の生徒さんを迎えて講演会と見学会を行いました。特別展示は7月中旬まで継続される予定です。

◆ 以下、中国の地すべり、モロッコの鉛・亜鉛鉱

床、サウジアラビアの第四系と、海外の話題が続きます。いずれもかなりのページ数に亘りますが、それぞれの国の近況なども添えられていますので、ご興味のあるところから読み進めていただければと思います。

◆ 地質調査所の先輩・藤井紀之さんからは、工業団地造成によって幻と化したと思われていた「柿野カオリン鉱床」が、実はその露頭の一部を残していたことをご指摘いただきました。貴重なご寄稿に感謝いたします。

◆ その他、スモールスケールマイニング(いわゆる小規模鉱山操業)に関する国際セミナーの報告、出版物の紹介などが本号の内容です。

◆ 巻末は「石の俗称」シリーズの4回目です。これまでは各テーマ毎に様々な石を紹介してきましたが、今回は「力石」一本に絞ってみました。力石にまつわる伝承の色々をお楽しみ下さい。

◆ 本文中にも掲示しましたように(p.14)、かねてから要望の多かった地質標本館の休日開館が、産総研移行を機に実現の運びとなりました。来る2001年7月20日(海の記念日)から、土・日・祝日の開館が実施されます。つまり、休館日を毎週月曜日(月曜が祝日の時は火曜日)とする、一般の博物館と同様の運営になります。皆様のご来館をお待ちいたしております。(遠藤 祐二)

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二
副委員長：谷田部信郎
委員：磯部一洋・七山 太・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 0298-61-3754
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第561号	2001年	5月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
2001年5月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 (代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2001 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。
また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ